

全国保育実践交流会ニュース

2020年2月 関西地域発行

関西地域は、2府8県にわたる広い地域に点在している保育園が交流しあっています。各園の運営も、認可・認可外・小規模保育事業・企業主導型・幼保連携型認定こども園・地域裁量型認定こども園と多様です。園の成り立ちや歴史は様々ですが、年長合宿交流は子どもが育つ場そして保育士も育つ場として行っています。近隣の集まりやすい地域で3つの地区に分かれて交流し合いながら、秋の全体合宿や各園が主催する交流合宿に参加し合っています。その交流をお伝えします。

- 北陸地区（どんぐり山、山中ふたば、高鷲ひかり、三国ひかり、たいら）
- 近畿地区（ひょうたん山、七実の木、くるみ、あすなら、山の子）
- 中国地区（くりのみ、もみの木、足守もみの木、たんばぼ）

近畿地区（くるみ合宿）

山の子共同保育園 園長 嘉摩尻

5月29日（水）～6月1日（土）、くるみ共同保育園を会場に合宿が行われました。くるみ共同保育園5名、ひょうたん山共同保育園1名、山の子共同保育園2名の認可外ばかりの3園8名が集いました。どの園も少人数のため、初日の顔合わせでは緊張していましたがすぐに打ち解け、午後の竹の水鉄砲作りでは自然に2人組になり協力し合っていました。

木曜日は奈良公園に出かけました。春日山原始林では子ども達全員が入ってしまえるような木の洞をのぞき、木漏れ日の中、巨木を見ながら登り、頂上ではワラビをどっさり採りました。眺望のよい木陰で奈良市街を見下ろして手作りのお弁当を食べ、周囲の山々を見渡しながら若草山に降りて来ました。シカに会ってはせんべいをやり、奈良の雄大な自然を満喫しました。夜には「黄金のかもしか」の映画も見ました。

金曜日はあすなら保育園の子ども達がやってきて土台のリズムを中心とするリズム遊びや高さへの挑戦で机4段からの飛び降り、逆立ち等をしました。夕食はお楽しみの流しそうめん。昨日採ったワラビの天ぷらも味わいました。

最終日は4歳児とのリズム遊びのあと、再び高さへの挑戦で今度は机4段に椅子を置いての飛び降りにも挑みました。

初めての合宿で、ややもすると緊張しがちな子ども達でしたが、年長の交流を通して自分のことは自分でする生活の見通しや、「やってみたい」と前向きな気持ちを持てたように感じました。後半は、くるみ共同保育園・あすなら保育園を会場に1日交流を行っています。



北陸地区交流

どんぐり山共同保育園 園長 津本

北陸地域の交流は5月から始まり、各園が会場になり1日のリズム交流を年3回、また各園が主催の合宿を年5回行っています。

合宿は各園が受け入れ園になることで、地域の特徴を生かした活動になっています。8月に認定こども園鷹巣ひかりで2泊3日の「海合宿」。今年は天気にも恵まれ3日間海遊びを満喫しました。遊覧船に乗って東尋坊を下から見上げたり、いかだに乗って飛び込んだり、磯でカニや魚を取りました。

9月はどんぐり山共同保育園で「山合宿」。1日目は日本一落差のある称名滝を見に行き、2日目は立山室堂に行きます。なかなか天気に恵まれず、台風で中止になったりと雄大な大自然をまだ見ることができません。しかし、今年は霧で視界が真っ白の中、ライチョウを見ることができました。3日目はグループで野外炊飯をしました。

10月はたいら保育園で越前焼のキャンドル立を作ったり、地域で伝わる「だいきり太鼓」を教わりました。1泊2日の短い交流ですが、最後にはみんなで「見合う会」をしました。

2月にはふたば保育園で、「スキー合宿」。そして3月、認定こども園三国ひかりでの「お祝い合宿」があります。

子どもたちは回数を重ねるたびに仲良くなり、他の園の子と会うのを楽しみにしています。しかし、今年度は「子どもの交わる力が年々弱くなってきているのでは。もっと交流がしたい。」という意見が出され、年度途中ですが出来るだけ都合を合わせて、1日交流の数を3回増やすことにしました。



関西地区秋の運動会合宿報告

認定こども園 鷹巣ひかり 園長 鳴海

今年も関西地域の姉妹園の年長さんがくるみ共同保育園に集まって3泊4日の合宿を行いました。137人の年長さんが寝食をともに過ごしました。食事と寝る場所が同じ空間という大変ありがたい環境で今年もくるみ共同保育園の絶大な協力のもと気持ちよく生活することができました。

合宿を迎えるにあたり、子ども達と生活していく中でどう楽しめるかと考えた時にたどりついたのが宮沢 賢治の世界観でした。宮沢 賢治のユニークな創作の世界を子ども達とともに感じられる、もしくはきっかけになってくれたらと思いい合宿の生活を考えました。

園庭でのリズムと運動会で行う課題（跳び箱・逆上がり・戸板・竹のぼり・丸太下り）を楽しみながら子ども達はしていたように思います。竹のぼりの時に泣いている男の子がいて「どうしたの」と聞くと「竹のぼりが嫌だ」と話してくれました。「わかるよ。泣いてると気持ちよくできないから、泣きやんでやり。でもね、みんな年長さんだよ。挑戦することが大事なんだよ」と声をかけるとその男の子は隣のお友達の竹のぼりの姿をじっと見て、自分で涙をぬぐい「やってみるか？」と声をかけると目がかわり自分で竹の前まで歩を進め挑戦したのです。その時は手を添えてあげ、やりきりました。次の日には、泣く姿はなく半分くらいまで自分で登ってました。最終日の公開保育の日には、自分で上まで登る姿を見たときはさすが年長さんだと感動しました。刺激し合える仲間が存在、力はすごいと交流合宿の大切さを子ども達から改めて学ばせてもらいました。リズムでは子どもも大人も毎日園庭を駆けまわり笑顔（大人は必至）で行っていたのが印象的でした。いじける子、めげる子がほとんどいなく、積み上げてきた歴史を子ども達から感じる事ができました。

お昼寝前や就寝前には宮沢 賢治の紙芝居（オッペルと象）を見て、その世界観が表現できるリズムをとりいれたところ子ども達、目をキラキラさせて仲間と力を合わせてしていました。またリレーと同じくらい大きな声で自然に応援し合う姿があり素敵だなと思いました。

公開保育当日も一人一人が輝いていて、くるみ共同保育園の広い園庭が狭く感じるくらい躍動していました。

3泊4日気持ちよく生活できたのは、保護者の皆様の温かいご理解があつてのことと感謝しています。そして、同じ想いでこの合宿を支えてくれた全ての大人がいてくれたからだと思います。本当に楽しかった3泊4日でした。ありがとうございました。



中国地区交流

くりのみ保育園 園長 川本

中国地方は、たんばぼ保育園、もみの木保育園、NPOもみのき保育園（新園舎を設立し、2018年10月に開園）、くりのみ保育園の4園があります。集まるのは5月に1回、1月に2回、2月に1回、計4回リズム交流をしています。県をまたいでいるので頻繁には会えませんが、朝9時には集まり、朝、夕とリズムを楽しみ、昼食とおやつを共にし、夕方4時30分まで濃い時間を共有します。豊かな文化を子どもに渡すことを大切にし、後半の3回は、映画も見ます。また、開催園の協力と、各園の保護者も給食のお手伝いに来てもらい交流を支えてもらっています。

交流は、他園の子どもたちに刺激され元気になり、おとなは、保育や給食を含め振り返る良い機会になります。

2回目の交流となった1月14日はもみの木保育園で集まりました。やぎのメメちゃん和犬のモモタローちゃんと触れ合い、保護者と力を合わせて切り開いた裏山で自由に遊ばせてもらってから、大切にしている土台のリズムを中心に始まりました。映画「森は生きている」を見て「女の子と女王様が仲良くなれてよかった」といった子もいました。たんばぼ保育園・NPOもみの木保育園・もみの木保育園の子どもたちは11月のもみの木合宿以来、くりのみ保育園の子どもたちは、9月のくるみ運動会合宿以来。期待と緊張感もありながら、今の自分の力を精一杯だす子どもたちでした。

